



首都圏初、平成30年度より開設予定 横浜市立大学「データサイエンス学部」設置に向け、始動。

横浜市立大学(学長：窪田吉信)は、平成30年度のデータサイエンス学部開設に向け、本日、文部科学省に設置届出を行いました。データサイエンスの名称を冠する大学学部としては、本学の設置する学部が、首都圏で初となります。近年、社会の様々な分野で急速に蓄積が進んでいるビッグデータの利活用を推進するため、医学・理学・経済学など多様な応用分野を持ち、融合型の教養教育を実践してきた本学の強みを活かし、データから新たな価値を創造するデータサイエンス人材の育成に乗り出します。

【特徴】

1 首都圏初の、データサイエンス学部

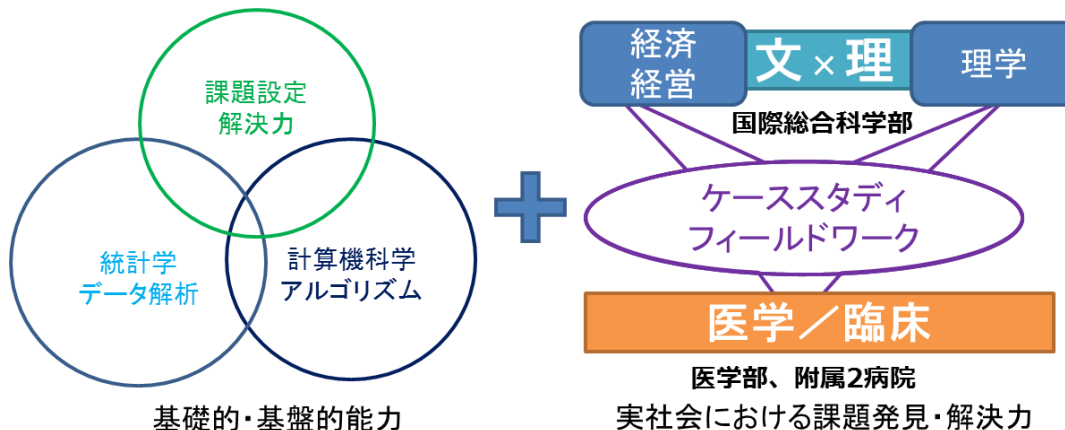
- ◇日々蓄積される膨大なデータから未来を拓くデータサイエンス人材を国際都市横浜から輩出
- ◇首都圏の医療活動や経済活動等の展開に伴って蓄積されるビッグデータやオープンデータの利活用

2 医学部、国際総合科学部を有する総合大学としての基盤

- ◇課題発見・解決力の養成に取り組む文理融合型の学部教育を実践してきた実績を有する
- ◇医学、生命科学、理学、経済学、経営学、社会学など、データサイエンスに展開できる多様な応用分野を有する

3 データサイエンス人材に不可欠な現場実践力を養成するカリキュラム

- ◇文理融合
統計学、計算機科学をベースとしたデータサイエンスの専門教育に加え、文系・理系の枠組みを越えた教育カリキュラムを提供
- ◇現場重視
企業や医療機関との連携を通じたPBL(Project Based Learning、課題解決型学習)により、実務を体験し、データが発生する「現場」の知識を学びながら、同時にデータ分析を通じたコミュニケーション力や課題発見・解決力を培う演習を豊富に用意
- ◇国際水準の英語力
TOEFL-ITP500点相当以上を3年次への進級要件とした英語教育を課し、世界で活躍するためのコミュニケーションレベルを修得。



参考資料

横浜市立大学 データサイエンス学部(平成30年度開設予定)

□育成目標

データサイエンス分野で活躍するために必要な統計学、計算機科学等の専門知識と高い職能技術を有し、医療、経済社会、情報通信など様々な応用分野に展開できる基礎能力を保持し、超スマート社会がもたらす多様なビッグデータから新たな社会的価値を創造できる人材を育成する。

□カリキュラム

データサイエンス学部では、超スマート社会の到来により様々な場面で蓄積される膨大なデータ情報の中から、社会ニーズに対応した課題を発見、解決策を提示し、各分野でイノベーションを引き起こしていくために必要となる教育・研究を実施する。

- ◆ 統計学と計算機科学の基礎を学んだ上で、医学、経済学、経営学、理学など、幅広い分野のデータサイエンスを学修することが可能。
- ◆ 3年次の専門領域演習、4年次の卒業研究において、大学病院、経済・産業界、自治体等をはじめ、データが生まれる現場の協力を得て、PBLを通じたコミュニケーション能力、課題発見・解決能力を修得していく。

1年次	2年次	3年次	4年次
横浜市立大学特有の 共通教養教育 + データサイエンスの 基礎科目	<専門性を高める> データサイエンスに 関連する講義 +応用分野の講義を履修	<研究室・ゼミ配属> 設定した研究に取り組む 演習を通じ、応用分野の “現場”に入り込む	<卒業研究> 研究をさらに深化させ、 卒業論文を作成する

□想定される卒業後の進路

- ・金融（銀行、証券会社、生命保険・損害保険会社など）【データコンサルタント、データアナリスト】
- ・IT企業（インターネット関連会社、ネットショッピング運営会社など）【製品開発、データマイニングエンジニア】
- ・製造業（電機メーカーなど）【製品開発、データマイニングエンジニア】
- ・広告代理店、総合商社【アカウントマネージャー、マーケティング担当】
- ・製薬メーカー、大学病院【臨床研究専門家】
- ・地方公共団体【オープンデータに基づくアナリスト】
- ・今はまだ存在していない職業

※本学の事前調査(下記概要)によれば、情報通信業、製造業、金融・保険業、卸売・小売業、サービス業等、幅広い産業分野から、データサイエンス学部卒業生への期待が寄せられている。

<調査概要>

- ◆調査期間：平成28年12月～平成29年2月
- ◆調査方法：本学既設学部生の採用実績をもつ全国の企業・機関の採用担当者宛にアンケートを依頼。374団体より回答(製造業、情報通信業、卸売業・小売業、金融・保険業、サービス業など、計16種の業種)
- ◆回答結果：本学部に「かなり興味がある」29.1%、「やや興味がある」54.3%と計83.4%が興味を示し、本学部卒業生を「採用したい」34.0%、「採用を検討したい」40.1%と計74.1%、全業種が採用意欲を示した。

□概要

- ・定員 60名 ・収容定員 240名
- ・学部名称 データサイエンス学部 School of Data Science
- ・学科名称 データサイエンス学科 Department of Data Science
- ・学位 学士(データサイエンス) Bachelor of Data Science
- ・入学者選抜 一般選抜(前期・後期)、指定校推薦入試、A0入試、
その他(海外帰国生・国際バカロレア・科学オリンピック・外国人留学生・社会人)
※文系・理系を問わず、受験可能。
- ・所在地 横浜市立大学 金沢八景キャンパス 〒236-0027 神奈川県横浜市金沢区瀬戸 22-2
(京浜急行本線「金沢八景駅」より徒歩5分)

□横浜市立大学の強み

- ・文理融合型教育を実践してきた国際総合科学部(国際教養学系、国際都市学系、経営科学系、理学系)の実績
- ・県内唯一の公立大学医学部を有し、附属2病院を中心に広範囲にわたり高度な医療を提供
- ・全学部生に共通した教養教育

教養ゼミ：“徹底的に「考える力」を体得する”をコンセプトとした科目。少人数制教育のもと、専門の異なる文系・理系教員各1名と学部の異なる学生でクラスを形成し、さまざまな分野の議論を自由活発に交わすことで、文理の壁を越えた価値の創造をめざす。

Practical English：大学における知的活動を英語によって行えるレベルのコミュニケーション能力を身につけ、それぞれの専門分野を学んでいくためのスターティングポイントに立つことを目的とする。授業は4つの基本的なスキル(読む・書く・話す・聞く)を使いながらすべて英語で進められ、「英語を使うこと」、「英語で考えること」、「英語で学ぶこと」を修得する。

【TOEFL-ITP500点相当以上を進級要件とする】

用語解説

■データサイエンス

社会の様々な領域から生まれるデータから、統計学や計算機科学などをベースに、意味のある情報、法則、関連性などを見出し、かつ、得られた結果の社会実装を創造していく分野。これらを実践する人材はデータサイエンティストとよばれる。

■PBL (project-based learning) 課題解決型学習

自ら設定した課題、または与えられた課題を解決していく過程で、さまざまな能力を育成する学習。教員が準備、設計したステップを踏んで学んでいく系統学習ではなく、学生自身が主体的に取り組む少人数グループの教育手法。問題解決に向け、知識を統合的に展開し、他者から学ぶ思考や主体的・能動的に関わる姿勢を養う。演習や講義を通じ、このPBLの手法を多く取り込み、実践的な課題解決能力を修得する。

YCU
横浜市立大学

お問い合わせ先

(取材対応窓口)

横浜市立大学 教育推進課長

田澤 紫乃 Tel 045-787-2422、8906